

# 小田原ガイド協会だより

## — O G O 第97号 —

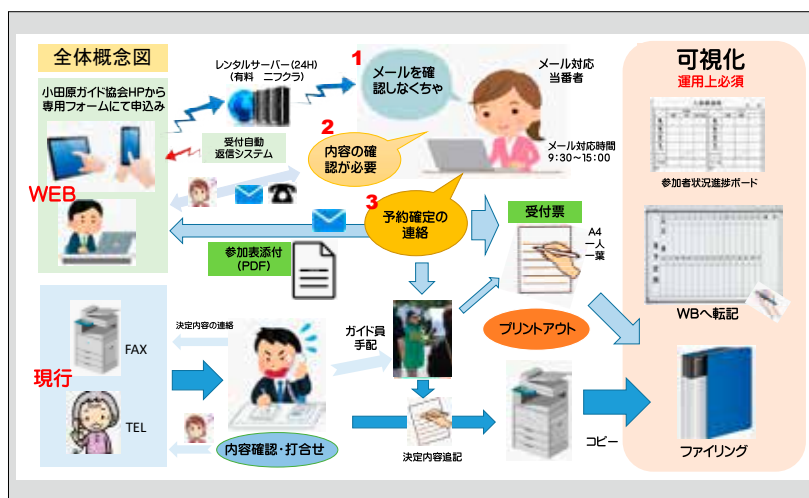
### NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒 250-0014)  
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

## ガイド活動のIT化

ホームページ委員会 関森 規安



「ガイド活動のIT化」とは大きな表現に思えるが、実は非常に重要な要素のひとつである。ガイド活動は、計画立案・公開・募集・下見・実施・反省会のサイクルを実践すること。これはデジタル化を含むITの助けがないと「ガイド活動の効率化」や「お客様へ上手く伝えること」が期待できないのではないのか。

一方、内部業務についてもIT化したい部分は多々あると思われるが、今回はお客様に対応する場面のIT化に絞って考察してみたい。

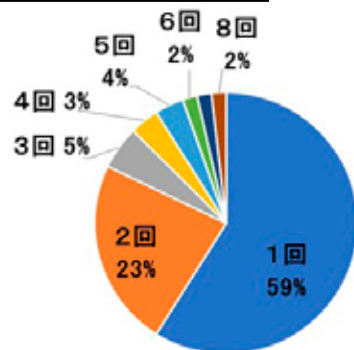
WEB申込みシステムの全体概念図 (導入時に作成)

実現させる上で苦労した点として、どの段階でどういう形で可視化するか、又、毎日出勤者が変わる当番制の中で、引継ぎ項目が出た場合のその方法をどのようにするか等、課題が沢山あった。当番者の中でWEB対応担当者を月単位で予め決めておく、そしてそのWEB担当者全員へ

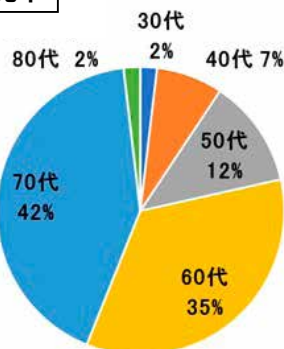
「現状」WEBでガイド申込み  
ガイド活動のIT化の具現化としては、昨年一月一日からガイドの申込みがWEBで可能となった現状がある。ただし、すべてではなく、申込み可能なのは「企画ガイド」と称しているガイドと「モデルコース」の一部についてである。HPでの情報公開は既に二〇一一年から行っているが、ようやくIT化の第一歩を踏み出したばかりというのが現状である。しかし従来からの電話やFAXでの申込みも継続している。電話やFAXでの申込みは現在の客層や機器類の普及状況を考えると完全にやめてしまう訳にはいかないと考えている。また、IT化した時にはどこかの段階で可視化することも必須となる。

「現状」WEBでガイド申込み  
ガイド活動のIT化の具現化としては、昨年一月一日からガイドの申込みがWEBで可能となった現状がある。ただし、すべてではなく、申込み可能なのは「企画ガイド」と称しているガイドと「モデルコース」の一部についてである。HPでの情報公開は既に二〇一一年から行っているが、ようやくIT化の第一歩を踏み出したばかりというのが現状である。しかし従来からの電話やFAXでの申込みも継続している。電話やFAXでの申込みは現在の客層や機器類の普及状況を考えると完全にやめてしまう訳にはいかないと考えている。また、IT化した時にはどこかの段階で可視化することも必須となる。

申込者のリピート回数



年代比率



の教育の実施などHP委員会として今思えばかなりのエネルギーが必要だった。

WEB申込みの現状として年代別内訳、申込みリピート回数のグラフを見て頂きたい。

(データは開始後六ヶ月間)

WEB申込み者の年代別内訳では、六〇代、七〇代の方々が約八割近くを占めており、五〇代以下では約二割となっている。(ガイド全体の参加者数に対する年代別割合は未算出)

意外にも年配の方のWEB申込みが多い事には驚いたが、若年層のガイドへの参加者総数が少ないと思われる。

また、企画ガイドの申込みにおいては、特に打合せの必要がないのでWEB申込みのデータをそのまま印刷して申込書としており、その場合では電話対応の時間や手間がなくなり、電話対応における聞き違いや記載ミスなどが僅少になったと感じている。

なお、企画ガイド全体におけるWEB申込みの割合は、約二〇%となっている。

当協会でのWEB申込みの仕組みを作ろうとした当初において、神奈川県全体ではどのようにしているかを約五〇の各ガイド団体のHPより確認したところでは、凡そ半数のガイド団体においてHPより何らかの形でWEB申込み(メールでの申込みも含め)の仕組みが既に構築されていた。

## 【現状Ⅱ】ガイドに活用AR機能

ガイド活動におけるIT環境については、現在、小田原市にて小田原城や総構のほか、石垣山一夜城、早川石丁場、石橋山古戦場など現在時点で合計十五カ所にAR機能を利用した「ARポイント」を設けており、その場所にてスマホやタブレットをかざすと、当時の建物や陣場等が3Dで再現されて目で見えるという仕組み(アプリ「小田原さんぽ」(無料)のインストールが必要)がある。

私達も実際のガイド活動に活用させてもらっている。このARの仕組みは小田原を訪れるお客様にインパクトを感じていただけるが、活用度合いはまだまだ低いと



▲「小田原城跡」掲示板とARポイント表示

▼「井戸曲輪」掲示板



感じており周知が必要と考える。なお「小田原さんぽ」は今後バージョンアップ版のリリースが予定されていると聞いている。小田原に関するお客様への情報提供がより一層わかり易く楽しいものになるようである。乞うご期待!

## 【課題及び今後の展望】

まずは、WEB申込みの範囲を広げていき、若い人達からのガイド参加者が結果として増えて行くように考えて行きたい。同時に、情報提供という面ではより速報性にすぐれたHP作り、各種SNSでの発信等を継続的にできる体制を作りたい。また、お客様の希望によりメルマガ等により新規企画ガイドの案内などを発信する必要性も今後は出てくるかと思われる。反面、個人情報保護について

ても一層の考慮が必要で、お客様からガイド申込み時に「先回の〇〇ガイドに参画しているのにデータは残っていないのか」とお叱りを受けることもある。

現在は小田原ガイド協会にて個人情報保護の規約を設定し適切に処置している。

また、HPやパソコンに保存されているデータを災害から守り、申込み等データの不意の消失に備える。そして協会内に收藏されている或いは個人が所有している財産ともいえる絵図などの膨大な資料をすぐ取り出し活用できる、ことを体系的におこなっていく事も課題の一つであろう。

ガイド活動のIT化の展望として5G通信網がもつと整備されれば、ガイド活動においてはIPAD等のタブレットを使った絵図の提示による説明や、ARポイントでのわかり易いガイドをしつかりと行う事ができると思われる。そして史跡の説明のみならず、必要に応じて例えば、白秋の詩の再生、花の名前や鳥類の鳴き声などをその場所々ですぐ調べてお客様に説明できる等、現場をみて頂きながらも言葉だけの説明よりも飛躍的に奥の深い、印象に残るガイドが行えるのではないかと考えている。

IT化をすすめる上では協会の意見や理解度を確認しながら、あせらずにじっくりと進めることが肝心と思える次第である。





宮ノ下・熊野神社境内にて  
[6月13日撮影]

## 企画ガイド

### 見頃のイワタバコ

#### 箱根堂ヶ島散策

山口哲生

五月一八日、企画ガイド第一回打合せに参加。スケジュール・担当等を決める。三十一日、私を含む新人三人の訓練を兼ねた勉強会を実施。本番に向けて先輩に色々のご教授をいただき、いざ、六月一六日と二〇日を迎えた。両日も四〇人近くの予約があり、私は一日目九人、二日目六人を担当することになった。

一六日は前日の雨で足場が危ういので堂ヶ島遊歩道は中止、夢窓国師閑居跡から折り返すことになった。「行きたかったな」「溪谷は気持ちいいのに」「残念」などのお客様の声を聞きながら急坂を一所懸命登ることに集中した。二〇日は好天に恵まれ、斜面の

遊歩道に注意深く歩く。振り向くと必死の形相の方、その方に「大丈夫ですよ」と声をかける方など皆さん真剣な面持ち。急峻な山道を過ぎたところで一休みすると、緊張が解けたのか笑顔でホッとした様子。急に「わいわいがやがや」が始まり、いかにも楽しそう。

次の見どころ宮ノ下発電所脇の吊り橋（桜橋）は、一度に渡れる人数が三人までの制限付き。皆さん実に硬い表情で橋を渡り、渡り終えると一気に笑顔「ゆらゆら揺れてこわかった」と一声後、またも「わいわいがやがや」の状態に。こちらの説明も耳に入らないほどの盛り上がり……。

太閤の石風呂への途中、NHK『プラタモリ』の写真を見せると「さすがテレビ番組。今と違って雑草が刈り取られていますね」と変な感心。また蛇骨川対岸から石風呂の湯気が見えた時には「ほんとに出てくる」の声が上がった。

ガイドを終えてインカムを回収しているとお客様から「以前お会いしましたね」と言われドキッ。こちらははつきり記憶がないので驚いてしまった。思わぬところで見られていることがわかり「あらためてしっかりと対応しなければ」と認識した次第。

## 企画ガイド

### 「徳川陣場を巡る」企画 駅からガイドの定例化へ

中村哲夫

NHK大河ドラマ『どうする家康』もいよいよ佳境に入ってきました。小田原合戦もその一コマとして描かれるときが迫っています。その時、家康がこの小田原の地に残した足跡の一部、陣場の痕跡を巡り、家康の心境を振り返ってみよう。その企画ガイド『家康公小田原滞陣の百余日』は一月と五月に実施されました。

この企画を二時間半程度に短縮し、六月の土日へ駅からガイドにおいて、陣場を中心に巡るコースとして設定し実施しました。

六月の土日は八日間、少なくとも八名の

(相中留恩記書)

今井村 御陣場跡



ガイドを確保しなければなりません。秋の「駅からガイド」を考慮すると、このコース

のガイドができるメンバーを増やす必要に迫られました。

四月までに四回勉強会を実施し、延べ人数四十名ほどが参加しました。また勉強会当日参加できなかった協会員のために、自主的に講師役を引き受け相互に学習する機会を設ける広がりが見られました。

六月に予約申し込みがあり、実施できたのは五日間、十名の方が参加されました。小田原駅スタートの「駅からガイド」は、小田原城天守閣までの基本コースの他に「総構えいいところ取りコース」「高低差を感じる総構えコース」などがあり、徳川陣場がこれに加わることになりました。

昨年の企画で、早川駅「石橋山古戦場」下曽我駅「曾我兄弟の仇討ち」も「駅からガイド」といえます。今まで国府津駅「慶喜公の散歩道」鴨宮駅「酒匂川の徒渡し」根府川駅「おかめ桜」など駅スタートの企画が実施されています。

今年は、小田原駅の観光案内所前で「駅からガイド」を始めて十一年目に当たります。より充実したガイドの実現をめざし、自己研鑽に努めたいと思います。

きびしい残暑とコロナの余波を乗り越えて、いよいよ秋です。

## 企画ガイド

梅だけじゃない

曾我の里

富澤節子

天気恵まれた初夏、5月28日と6月5日『梅の里曾我を歩く』企画が催行されました。

時節柄、曾我兄弟の仇討をテーマに関連個所をご案内しました。

この曾我兄弟物語自体が最近では認知度が低いのですが、昨年のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の影響もあり、興味を持っていただけたようです。私のチームは女性のみで「嫁いできてから今やっと時間ができ地元の事をきちんと知りたい」という方や「他所から来て小田原が好きになったのもっと知りたい」という方々でした。

曾我兄弟の養父、曾我祐信館の跡地を訪ねるに当たって今更の再勉強をしました。館というのは、当時は城でしたね。そういう眼で見ると、城を築くのに良い場所です。崇泉寺跡か



▲崇泉寺跡からの眺望



◀ウコンの草花

ら曾我城址を思い起こし、この地に君臨し、一大勢力を成していた一族が小田原北条氏との対立で色々な物が消失したのですね。

参加者の皆さんから「蘇我—宗我—曾我を説明して」とのご要望、……頑張りました。また、現在の曾我の地を語る時「長谷川豊吉さん一族」は外せないのですが、その出自を問われました。「曾我一族に關係のある武士だったのか？」と。不勉強で説明できず、宿題にさせていたいただけてます。

今回、崇泉寺跡へ行く手前でウコンの花を初めて見ました。参加者全員スマホタイムでした。参加のお客様の中には花に詳しい方、山に詳しい方もいらして、和やかなひと時でした。曾我は梅もよいし、野山の景色、歴史の息吹が人々の暮らしの中にありました。

末筆になりましたが、帰りにお忙しい中、対応していただいた長一商店さん、風月堂さん、ありがとうございます。下曾我で美味しい梅やお餅を購入できたと感謝です。

## 委員会だより(Ⅱ)



## 防災委員会

当委員会は設立から七年が経ちました。

当時、藤棚駐車場利用のバスで、下車直後に救急搬送が発生しました。以来、体調不良があつた時に少しでも適切な対応ができるように、協会全員が普通救急救命士の資格をとることを目標としました。それは三年後に達成されました。この資格は三年更新が望ましいのですが、コロナ禍のため昨年度まで実施できませんでした。

避難訓練は当協会が総合管理事務所に声掛けしスタートしました。以来、毎年始業式の日(四月一日)には総合管理事務所と協力し全員参加の避難訓練を行っています。今年は関東大震災から百年。私たちは「自分の身の安全を確保しながら「小田原城内」「早川観光案内所」「石垣山一夜城」で一次避難→二次避難までの流れをまとめ各所に掲示しています。

今夏、新型コロナ禍より四年間

中断していた普通救命講習が再開となり、再度、協会の全員資格取得を目指し八月四日より受講申請しました。今年度からWeb講習を活用、自宅での一時間受講者は研修所で三時間から二時間に短縮になります。今回協会員を①11期②8期生対象の初心者③7期以前対象でWeb講習可能な方④Web講習を受けない三時間受講者に分け、今年中に終了予定です。

今も新型コロナ禍が終了したわけではないのですが、この状況下でも全員取得を目指しています。企画ガイド等に参加されるお客様が体調不良の時、応急対応の資格がある協会員がいれば安心でしょう。お客様が安心して参加していただくために、日頃から準備することが防災委員会の役割と心得ています。

「二〇二三年八月…飯塚忠夫」



普通救急救命士講習の様子  
[8月24日撮影]



## シリーズ 家康紀行 ③

## 神の君誕生の地

## 岡崎城訪問記

橘川 健人

## 一．花の岡崎城

家康紀行で岡崎城は外せない。天文11年（一五四二）12月26日家康公はここ岡崎城内で誕生した。岡崎に行くには豊橋駅から名鉄特急で行くのがお勧めだ。豊橋平野を西に向かい21分で「東岡崎駅」に到着する。一つ先の「岡崎公園駅」で降りても良いが、今日は乙川の桜並木を見ながら岡崎城に向かう。歩くこと10分で乙川に掛かる明代橋に到着、ここから岡崎城天守閣が望める。岡崎城は15世紀中頃、西郷氏によって築かれたのが始まりである。そして家康公の祖父「松平清康公」が享禄4年（一五三二）龍頭山と呼ばれた現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称されるようになった。家康公の在城は永禄3年（一五六〇）からの十年間、天下取りの基礎を固めた城である。明治維新後、城は破却されるが、今も堀と石垣に昔を偲ぶ事は出来る。家康公の関

東入部以降は秀吉公の家臣、田中吉政公が城主となり城を中心とした総構を整備した。今歩いている乙川沿いもその総構の一部である。今日は天気も良く、桜も満開で平日なのに多くの花見客でお城は賑わっている。乙川に掛かる潜水橋を渡ると城内、龍城堀に掛かる赤い「神橋」を渡ると本丸下に着する。神橋の上では満開の桜と石垣に囲まれた堀の絶景を堪能する。直接本丸に登る石段もあるが今回は龍城堀沿いに回り込み、家康公産湯の井戸のある板谷曲輪経由で二の丸に行く。家康公誕生に係わる遺構はこの板谷曲輪にないので、岡崎城訪れたら是非見て頂きたい。ここで家康公が生まれ幼少期を過ごしたと思うと感慨深い。井戸の見学が終わり二の丸に行く。二の丸は様々な観光施設があり、今年は「どうする家康大河ドラマ館」が建てられ人気



神橋と龍城堀の桜並木

を博している。有名な「家康公しかみ像」他二体の家康公像と本多忠勝公の銅像もある。最後に清海堀沿いに本丸に進む。清海堀は曲線状に掘られ一部天守台に次ぐような古い石垣が確認されている。しばらく行くと正面に本丸大手南袖石垣が見える。この石垣の高さは城内最大で11メートルもある。本丸に入ると昭和34年（一九五九）に造られた復興天守閣がある。天守閣に上り岡崎の町並みを楽しみ、岡崎城の見学は終了、八丁味噌の町並み見学に向かう。

## 二．八丁味噌の町並みと東海道

岡崎らしさを味わうなら元祖釜揚げうどんの店「大正庵釜春」がおすすめ。店は岡崎公園駅前にあり当日は店の外まで人が並んでいた。少し固めのうどんを釜揚げにすると小麦の風味が増す。ご当地八丁味噌で煮込んだ味噌煮込みうどんが絶品だが、今は「もうこしうどん」が一番人気である。是非ご賞味あれ。

八丁味噌の町並みといっても二軒の味噌屋さんしかない。江戸時代から続く「カクキュー」と「まるや」の二社が東海道を挟んで営業中である。八丁味噌の謂れは岡

崎城の西に八丁（八七〇）の位置に味噌屋さんがある事が謂れと言うのは余りにも有名な話。特に戦災を免れた「カクキュー」の本社事務所は昭和二年（一九〇七）に建てられた建物で、国の登録文化財に指定されている。

## 三．雲龍山本證寺

本證寺に行くには東岡崎駅から名鉄に乗り、新安城駅で西尾線に乗り換え南桜井駅で降りる。乗換えも含め約30分で到着する。更に本證寺までは田園風景の中を20分歩く。ここは若き家康を悩ませた三河一向一揆の拠点の一つである。今でも城郭寺院の遺構が残り平成27年（二〇一五）国指定史跡となった。週末にはガイドさんも常駐しておりここも訪ねる価値大。が、今回はこの本證寺で終了。

訪問日 二〇二三年三月三〇・三一日



岡崎城天守閣

## 一 能登半島で 震度六強の大地震発生

五月五日、何かにすがらないと立って居れない大きな地震が能登半島で起きた。小田原地震との類似点は地下十キロメートルの浅いところで発生する内陸型地震であつたことです。震源地が浅いために大きな地震になった。小田原地震との相違点は、発生原因が約二百キロメートル地下の沈み込みプレートからマントルへ加水された水分にあることです。今回の地震は、水分が地下十キロメートルへ上昇して、断層の隙間へ入り岩盤のヒビを大きく動かしたために発生しました。

## 二 小田原の地震

小田原周辺では、フィリピン海プレートが北米プレートの下へ沈み込みながら強い力で押しています。小田原の地震は、北米プレートの押し戻しによる活断層の岩盤のヒビとズレにより起きる点で能登半島と異なります。

小田原の地震は文献記録と遺跡発掘により知ることができます。平安時代には弘仁と元慶の大地震があり、戦国時代では伊勢宗瑞が

小田原へ入る直前の明応の大地震や、それから約六十年後に弘治地震があつた。北条氏康の隠居の背景には、弘治地震と翌年の飢饉疫病があつたと考えられます。地震からの復興が、時代の転換点を迎えてきたと言えます。



### 真木 和男

今年は大正 12 年の関東大震災から百年目の区切りに当たります。そこで、4 回にわたり〈地震の仕組み〉〈関東大震災〉〈小田原の地震〉〈防災〉について連載いたします。

第三回目は

### 小田原の地震

についてお話しします

のプレート内小地震が寛永、天明、嘉永の三回起きました。大小混ぜての地震は江戸時代以降約七十年周期で起きており、大地震は約二百年後に起きています。大正十二年（一九二三）以降、小田原の周りでは、北伊豆、大島、県西部地震がありました。大きな影響を受けていないので、北米プレートの押し戻しのエネルギーが溜まっていると考えられます。

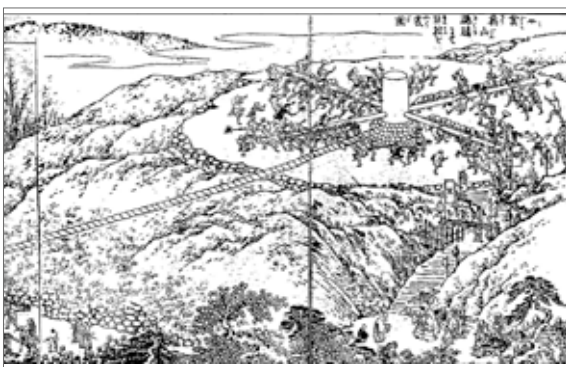
### 三 江戸時代の小田原地震

江戸時代の三回の地震について、小田原城の被害と復興を中心に見てみたいと思います。

第一に、江戸時代初めの寛永地震は、予想震度七で倒壊による被害が大きかった。午前五時頃に起きたので火事の被害記録がなく、小田原の町は全壊し家の倒壊により小田原で千人以上の人が亡くなった。小田原藩主の稲葉正勝も屋敷で被害を受け、そのときのケガがもとで翌年に亡くなっています。天守は、翌年に將軍上洛を控え、幕府の資金によって再建された。小田原城、城下町、宿場町は稲葉時代の四十数年間をかけて、新しい城郭と街並みに生まれ変わった。地震からの復興が戦国から近世への転換点になったと思います。

第二に、江戸時代半ばの元禄地震は、真夜中の予想震度七であつた。特徴は柱の摩擦で火事が多発したことです。天守も火災で焼け落ちたが、天守の摩利支天は奇跡的に灰の中から無事で現在も最上階に祀られています。本丸と二ノ丸で発掘された、赤く焼けた地層が地震に因る猛火を物語っています。藩主大久保忠増は天守を再建するとともに、城下で亡くなった約九百人を弔うため慈眼寺を建立した。

第三に、江戸時代後半の天明地震が予想震度六で、被害が天守の傾きのみに限られた。天守が北東の方向に三十度傾いたので、三ノ丸の南西の小峰に鯨巻を三台据えて引っぱり起こしたと伝えられています。なお、大正十二年の関東大震災については第二回に述べましたので参考にしてください。



天明の地震で傾いた天守は  
鯨巻三台で引き起こされた。  
『絵本太閤記』より



## リレーエッセイ／わたしの城旅 ②1

## 「会津の三泣き」と鶴ヶ城

菅野達義

東北から移住して八年、郷愁に誘われ梅雨曇りの六月末、妻と会津若松の鶴ヶ城を訪ねた。三十数年前、転勤で二年間暮らした街である。社宅は鶴ヶ城の西出丸堀端で、近くに直江兼続の屋敷跡、山鹿素行の生誕地があった。

当時の散歩コースを歩く。西大手門から西出丸の西中門、本丸と懐かしい光景が広がり、タイムスリップした感覚になる。転校が嫌だとギャン泣きした娘のスキー練習路、「会津冬まつり」の厄除け花火大会で名前を放送され赤面した記憶が甦る。

本丸には五重五階の天守、蒲生氏郷が穴太衆に積

ませた野面積の石垣が圧巻である。天守瓦は雪国の低温・積雪に耐える鉄分の多い釉薬を用いた赤瓦、国内唯一である。

歴代城主は伊達政宗、蒲生氏郷、上杉景勝、加藤嘉明、保科正之などの名立たる武将、会津が東北地方の政治・経済・



軍事の要衝だった証しである。秀吉は小田原合戦後に会津に下向、奥州仕置にて蒲生氏郷を城主に任じた。北条氏の宿敵である上杉景勝も城主である。小田原城との縁を感じる城である。

目当ての昼食は七日町の郷土料理店へ。身欠きニシンの山椒漬け、棒タラの煮つけを辛口の地酒で流し込む。濃い目の味付けは昔と変わらず旨い、締めはニシンの天ぷらである。七日町は、日光街道など三街道が通る西の玄関口であった。現在は、郷土料理、会津漆器、絵ロウソク、造り酒屋などが軒を連ねる観光スポットである。

会津人の気風・気質を表す言葉に「会津の三泣き」がある。初めて移り住む人は、会津人のよそ者に対する厳しさ・不愛想に涙を流す。慣れてくると、温かな心と人情に涙を流す。そして去るときは人情の深さに別れが辛くて三度目の涙を流すと言う。これには、会津の風土や戊辰戦争などの歴史的な背景があると言わ

れる。

さて、超鈍感な私を感じた「会津の三泣き」を思い起こすと、駐車場の雪掻き、会津人の真面目な頑固さ、そして会津人の酒の強さであった。懐かしき思い出の地、会津に感謝である。

## 【2023年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

| 企画名                     | 月日                   | コース概要                                          |
|-------------------------|----------------------|------------------------------------------------|
| 老舗名店と小田原あんこ旅<br>(東コース)  | 9/27・10/6<br>(水) (金) | 小田原駅～駅前通り～お堀端通り～三の丸土塁～青物町～かまぼこ通り～鈴木製館所～なりわい交流館 |
| 歩くの大好き!!<br>柑子色の秋 下曾我の郷 | 10/14・20<br>(土) (金)  | 下曾我駅～めがね橋～瑞雲寺～天津神社～宗我神社～法輪寺～崇泉寺跡～曾我氏館跡～城前寺     |
| 紅葉の箱根<br>堂ヶ島溪谷ウォーキング    | 11/中～下旬<br>日時未定      | 箱根登山鉄道宮下駅～堂ヶ島溪谷散策路～富士屋ホテル付近                    |
| 家康公小田原滞陣の百余日            | 12/10 (日)            | 箱根登山鉄道風祭駅～萬松院～小田原用水取水口～大久寺～無量寺～なりわい交流館         |

・詳細は、小田原ガイド協会ホームページをご覧ください。

## 【編集後記】

折れたまま 咲いてみせたる 百合の花

北村透谷の句である。

島崎藤村の死をいさめた透谷が

その半年後に 自殺するのである。

二十七年であった。

久し振りで 透谷の生誕地 唐人町をたずねた。

雨がはげしく降っていた。

猛暑続きだった過酷な夏。体調気をつけて元気に……(T・I)



透谷生誕地碑

【編集委員】 磯崎知可子 柏木由美子 上田 信一 飯沼忠雄

## 令和5年度賛助会員

### 賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

|                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 朝日ファミハルネ店 23-3100     | せきしん運輸 42-7375  |
| 鰺 竜 北 條 080-5465-0066 | 田 毎 24-3030     |
| 伊 勢 屋 22-3378         | 田中屋本店 22-5545   |
| ういろう 24-0560          | だるま料理店 22-4128  |
| 魚市場食堂 23-3818         | 長 一 商 店 42-0359 |
| 江 嶋 22-1661           | 欄干橋ちん里う 22-1547 |
| 小田原種秀本店 22-6238       | 露木木工所 22-5995   |
| 小田原箱根商工会議所 23-1811    | 東 崑 庵 22-4657   |
| 籠 清 23-4530           | 鳥 かつ 楼 22-2078  |
| 籠 常 商 店 23-1807       | 菜 の 花 24-5688   |
| 柏木美術鋳物研究所 22-4328     | 箱根屋酒店 22-6416   |
| カネタ前田商店 23-4741       | 小田原早川漁村 24-7800 |
| 甘味処 鎌 倉 20-4475       | 平 井 書 店 22-5370 |
| 居酒屋 金 時 23-0721       | 松崎屋陶器店 24-2479  |
| 食事処 幸 繁 22-5155       | マツシタ靴店 24-2233  |
| グリル 木の实 22-2912       | 万 葉 の 湯 23-1126 |
| さがみ信用金庫 24-3161       | 柳屋ベーカリー 23-2342 |
| 志村屋米穀店 24-2224        | 山市湯川商店 22-5637  |
| 杉 兼 商 店 22-5051       | 山 安 21-1137     |
| 鈴木製館所 22-3520         | R Y O 20-0077   |
| 鈴廣かまぼこ 22-2333        |                 |

【50音順】